



南高

進路だより

律・啓・創
HOP! STEP! JUMP!

11月

平成30年11月1日
福島南高・進路指導部



11月の行事予定



- 1日(木) 南高へ行こう
①②⑦④+学習活動発表
PTA進路講演会(15:10~16:10)
- 2日(金) 月曜日の授業、進学推薦会議④
第3回ベネッセ駿台マーク模試
(3年)~11/3
- 3日(土) 文化の日、修学旅行結団式(2年)
- 5日(月) 修学旅行(2年)~11/8
- 6日(火) 職業体験を聞く会(1年/⑤⑥カット)
木曜日の授業①~④45分、午後通常
- 8日(木) 火曜日の授業
- 9日(金) 修学旅行代休(2年)
- 11日(日) 全商珠算・電卓実務検定
第2回英検、二次

- 13日(月)~日商簿記検定対策講座~11/16
(1・2年情報会計科)
- 14日(水) 第2回サイエンスセミナー
(文理科1・2年)⑥⑦
- 18日(日) 日商簿記検定
- 21日(水) 進路指導部会⑩
- 23日(金) 勤労感謝の日
- 25日(日) 全商ビジネス文書実務検定
- 27日(火) 後期中間考査~11/30
- 12/2(金)~3(土) 全統センター試験プレ
(3年)
- 12/5(木) 進学推薦会議⑤

センター試験 1月19日まで・・・あと79日

1年生へ 平日の学習時間(第2回スタディサポートの結果)

	校内 今回	前年	前回	① 難関国 公立大	② ブロ ック大
ほとんど0	22	26	1.5	12	12
30分	24	21	4	11	13
1時間	27	25	17	19	21
1.5時間	18	17	15	16	16
2時間	7.5	9.5	34	25	25
3時間	2	2	20	14	12
4時間	0	0	6.4	2.3	1.7
5時間	0	0	2	0.4	0.4
6時間以上	0	0	0	0.2	0

左図は9月に実施したスタディーサポートによる君たちの日頃の学習状況を表したものである。ほとんどしない・30分と答えた割合が全体の46%を占めている。学習状況は前年(現2年生)とあまりかわっていない。学習時間が明らかに不足している。

① 難関国公立大学(東北でいえば東北大学)、② 国公立ブロック(新潟・千葉など、私立大ならGMARCHクラス)に実際に合格した人が、この時期2時間以上学習していた割合と是非比較して欲しい。

①で41.9%、②で39.1%、君たちはわずか9.5%である。低学年から学習時間を確保して努力を継続できた人が合格できるのである。前回調査(高校入学前)で、君たちは平日の学習時間を2時間確保したいと答えた人が35.1%、3時間と答えた人が30.2%だったことを付け加えておきたい。

そこで提案です。「10年後の自分」を思い描き、今の自分まで逆算する。「社会人として生きる上で必要な力、スキル」「希望する大学に入学するために必要な学力」「自立して生活するために知っておかなければならない知識」など、いくつかの種類に分けて書き出し、だから今、この勉強をしなければいけないと自分で計画を立ててみてはどうだろうか。11月27日(火)からは後期中間考査が始まる。今学んでいる全ての教科

・科目が君たちの考える力になる。今何をすることが、自分にとってより良い人生になるのかを考えて取り組みなさい。苦しみや嫌なことから逃れても、それは一時的なものではない。自分の人生を狭くするな。

2年生へ 平日の学習時間今後どうしたいか？ (第2回スタディーサポートの結果)

	校内 今回	前年	前回	①難関国 公立大	②ブロ ック大
ほとんど0	7.1	5.5	4.1	3.8	3.4
30分	10	10	13	3.6	3.6
1時間	32	27	30	11	12
1.5時間	21	20	19	10	11
2時間	23	28	27	26	29
3時間	6.6	6	6.6	30	30
4時間以上	1	2.5	0.5	16.2	10.8

左の図は「平日の学習時間後はどうしたいのか」という問いである。現時点の学習時間は1年生と大差ないので、ここでは割愛している。学習時間を増やしたいと考えている生徒がいるのは間違いないが、問題はその学習時間である。3時間以上しなければと考えているのはわずか7.1%である。1年生と同じように、①難関国公立

大学に合格した人がこの時期3時間と答えた割合が30%、4時間以上と答えた人が16.2%を占めている、同じく、②国公立ブロック大では、それぞれ30%、10.8%である。①②に見事合格した生徒はこの時期から受験勉強の体制を作っていたと推測できる。繰り返しになるが、受験勉強への切り替えが早いほど、志望校合格が見えてくるのである。君たちへの質問項目の中で気になることがもう一つある。苦手科目の問いに、**数学(38.1%)、英語(24.9%)、国語(11.7%)**と答えている。①では、それぞれ20.7、18.0、33.7、②では、23.6、24.0、29.9と国語が苦手と答えている生徒が一番多い。苦手な事項については、君たちは**古文の文法26.4%**と多いのに対して、①や②の生徒たちは評論文や小説の読解を挙げた割合が多くなっている。これはどういうことだろうか。日頃の学習で、一番していないのが国語であることから古典の学習を後回しにしていることが分かる。逆に現代文は少なくとも読むことができることから、分かったつもりになっていないだろうか。古文の文法はマスターすれば確実に点数を稼ぐことができるのだから、早急に取り掛かるように。数学についてであるが、取り組み状況に対する質問には、「宿題はするが復習はしない」が**57.4%**と断然多い。①や②の生徒たちは「宿題と復習は必ずする」と答えた割合が一番多い。数学が苦手科目なのは復習していないことが原因である。解き方が分かった問題は類似した問題に数多く当たることが大切だ。

ところで、2年生がセンター試験を受験するまで、あと「430日」位しかないのだ。まだ先と思っている人はここで意識を改めてほしい。11月から進研模試は、理科社会を含む5教科がスタートする。まずはバランスの取れた成績が取れるように努力せよ。結果が返ってきたら、自分のできないところ、弱いところを必ずチェックして、解説書を読み込んで、その克服に努力せよ。解説書でも理解できないときは教科担当に積極的に質問に行きなさい。そして、分からなければ、勉強の仕方を教えてもらいなさい。**今の時期に決して受験科目を絞ってはならない。**3年生になって、受験に必要な科目が増えた時に対応できなくなる。また、希望校が変わった時に、受験できる大学が限定されてくる。

3年生へ ー現役生はここから伸びるー

今、推薦入試を受ける生徒の指導が佳境に入っている。推薦入試本番をこれから迎える諸君、残された時間を有効に使い、合格のために全力を尽くせ。そして、受験が終わったら一般入試に向けて切り替えてください。可否は約束されていないのです。失敗することもあるので、その時に備えておきなさい。一度ぐらいの挫折で挫けるな。すべてが順風満帆でいく人生など、あり得ない。苦境・挫折があつて人を強くしてくれる。更に、高慢にならずに、人を謙虚にもしてくれる。自分の弱点を知り、自分の弱点と対峙し、克服しようとする勇気が湧いてくるはずだ。進路が決定した諸君は、すべきことを「行動」で表せ。近頃、授業に身の入らない者、授業中寝ている者も散見する。合格してそれで終わりではないことを自覚すること。君たちは推薦するに相応しいとお墨付きをもらった諸君なのだから。大学入学まで、一般試験で入学してくる生徒と同等の学力を身につけなければならない。やることはいっぱいある筈だ。

10月の記述模試は、マーク試験とドッキングさせて、合否判定を見通すための模試であった。夏以降の学習の成果を確認するための模試であった。全統マーク・ベネッセ記述・全統記述模試と続いたが、自己採点はどうだったか。模試結果が返ってきたら、そこから合格に必要な点数をどう積み上げていくかを考えることが大事である。先月号でも同じことを言ったが、本番の入試では満点は必要ないのである。志望校合格のためにあと何点必要かを考えて、どう伸ばしていくか、計画を立てよ。「**現役生はここから伸びる**」特に、演習の時期に入っている英語・数学は、自分の目標にどれだけ近づけたかを確認しておきたい。理科社会は、今、仕掛ける時期である。重点を置いて勉強せよ。伸びしろはまだまだある。得意教科が君を救ってくれる例を今までたくさん見てきた。ここが正念場である。

2019年一般入試の難易変動は？

◎センターの志願者は18年より微増、59万人程度か

文部科学省発表の『平成30年度学校基本調査速報』によると、18年は4(6)年生大学の受験生数(以下、大学受験生数)が67万9千人で、全年とほぼ同じだった。19年は、18歳人口は微減だが、大学・短大への現役志願率は引き続き上昇が見込まれることから、大学受験生数は推定で68万2千人と前年よりわずかながら増加するものと見られる。センター試験の出願数はどうなるか。2年後に、センター試験が廃止され、記述試験を含む「大学入学共通テスト(以下、共通テスト)」が導入されるため、受験生に「現行入試のうちに合格したい」という意識が早くも強まっている。しかも、18年私大入試が難化したことから、併願数を増やす傾向が強まりそうだが、受験料や入試日程、対策の面から、セ試験利用入試の併願への依存度が高まるものと見られる。さらに、やはり私大の難化により、既卒者が増えているとみられる。こうした要素を加味して、セ試験の出願数は、18年よりわずかに増える59万人程度と予想される。

◎国公立大学

19年度のセ試験は、2年連続で平均点ダウンした国語が、その反動でやや易化しそうだが、やはり平均点ダウンの英語リスニングは「入試改革」を先取りした新傾向の出題が続くと見られ、反動による易化はなさそう。その他、科目による平均点アップダウンはあるが、それらが相殺して、全体の平均点はほぼ前年並みと予想される。得点が伸びない分、安全志向が強まりそう。予備校や高校の進路指導部の先生方へのアンケートを見ると私立大志向が続くものの、同時に18年と比べると、国公立大志向もやや強まる模様。大都市圏の私立大の難化に対して、地方国立大学も積極的に狙う戦略に転じるのではないかと予想されている。

◎私立大学

18年入試では、国立大学の文系縮小から、文系志願者が私立難関～中堅上位校の併願を増やし、私立大専願者が押し出されるように中堅校への併願を増やした。一方、「定員管理の厳格化」がさらにすすみ、大都市圏の総合大学で志願者増と合格絞り込みによる「実質倍率が目立った。こうした異次元の合格絞り込みのため、「模試でA判定であっても、不合格が続いた」という。そして19年度はどうか。東京23区内の難関～中堅上位校は軒並み難化が予想され、一方で首都圏のその他の地域や京阪神の大学への併願増も予想されるため、大きな変動要因となりそう。こうした状況に対し、前述の超安全志向から公募推薦やAO入試の志願者増、さらには指定校推薦の利用率アップが予想される。本校でも本年は推薦での志願者が増えている。どう転んでも、私立大学の中堅上位校の難化は必至であり、私立全体の志願者指数は6%程度増える見込みだ。

◎福島大学

農学群食農学類を新設。募集人員は前期60・後期20と小規模ながら、県内初の農学系として、多くの志願者を集めると見られ、隣県の山形大一農、宇都宮大一農、宮城大食農が影響を受けそう。一方既設の4学類は、定員減に伴い募集人員減となる。それがどう影響するかが注目である。

◎東北学院大学

18年に定員増(全学で約6%増)を行い、志願者減で倍率がダウンした。逆に定員増通りの合格者をだしたことが人気材料となり、19年度は福島大の文系縮小もあって国公立大志望者の併願増が見込まれ、やはり志願者増が見込まれている。
(『蛍雪時代』11月号参考)

「学びの森」終わる！



10月4日・18日の2日に分けて、2年生対象に「学びの森」が実施された。今年も様々な研究分野から講師をお呼びし、君たちに学びの入り口を体験してもらった。講師の方から感想を伺うと、概ね良好で、粘って沢山の生徒が質問した等の返答が返ってきたので、その積極的な姿勢に頼もしく感じた。以下に生徒の感想からいくつかその一部を紹介します。なぜ、「学びの森」というテーマであるのか、を考えるとよく分かるはずです。「森」の中をさまよい、「学びの醍醐味」を味わえ、ということです。

「観光」について、今日「光を観ると光を観せる」という言葉を教えてもらって、「自分の国や住んでいる土地のことを観せたり、紹介したりして、他の国の素敵などを学ぶ」こともまた観光なんだと学ぶことができました。大学で観光学を学ぶのであれば、それは世界を学ぶことだということを実感できました。観光学を学ぶ上で、自分では何ができるかを考え、世界の問題について触れて、それを解決するために、今自分ができることをやっつけていこうと思いました。

保育者というのは、子どものお世話をする、というイメージがあったけど、実際は「遊び」を通して「教育する」という教育の一部なんだと分かりました。「遊び」の中で生まれてくる子どもにとっての不思議や疑問を、すぐ答えを教えるのではなく、一緒になって考え、答えを見つけ出すというこのプロセスがとても大切なんだと気づきました。

最初の鉄の棒を例にした話で、鉄の棒の真ん中をくり貫いた場合どうなるか。それをした場合のメリットはどのようなことか。私は鉄の棒がもろくなってしまっただけでメリットはないと思いましたが、先生の話によると、真ん中をくり貫いてもあまり強度は変わらず、軽くなることで扱いやすくなるそうです。原価が安くなり、運搬しやすいなど、私の考えもしなかった利点がありました。大学に行けば、もっと知らない工学のことが知れると思いました。数学・物理以外にも英語を使うという話だったので、もっと頑張らなければならないと思いました。

ヨーロッパの難民の話聞いて、自分がどれだけ恵まれているか、そして日本に難民がいないことがどれだけいいことなのかを知ることができました。「移民」の話聞いた時、自分も移民の中に入っていたことに気づくことができた。震災をきっかけに、様々な地域に避難した一人である自分が12か月以上避難という形になったので、その定義を知ることができました。文化では、価値観に縛られないことが大事だと思いました。日本人だけでも、一人一人違うところがあるのだから、外国人なら尚更人の付き合いも違うし、習慣も違うということを感じることができました。

今の福島県だけでなく日本が看護師を求めている。10年間で50万人の看護師を増やそうとしていると聞いて、やはり看護は大切だと思った。そして今の看護は専門的な知識を必要とした専門的な看護も大事だとおっしゃっていた。講師だったよしえ先生が「がん看護」という分野を重点的に勉強していて少しだけ詳しく教えてもらった。自分も先生のように専門的な看護を勉強して最終的には海外で働きたいと考えている。

自己理解と職業理解の話になったとき、自分を客観的に見て知ることで自己PRにもつながり、自分の強みや得意なことを知ることができるのでとても大事だと思いました。職業理解では、自分が付きたいと思っている職業の仕事内容や労働条件の特徴、求められていることを知ることが重要だと分かりました。高校生活で心掛けることが就職したときにもつながっていくと思うので、時間を守る、挨拶、言葉遣い、身だしなみ、表情、規則正しい生活を守り続けていきたいと思います。

就職希望者続々と内定者（24名） 公務員1次合格25名

3年連続で就職希望者20名以上いる中で、ここ（11/1）までに24名の就職内定をもらっている。又、公務員希望者は22名いる中で、17名（延べ25名）の1次合格者が出ている。久々の大量合格が見込まれるのではと期待している。2次試験も頑張っしてほしい。尚、就職内定先は次の通りである。

(株)ヤクルト本社福島工場(3)、福島信用金庫、ふくしま未来農業協同組合(3)、福島キャノン(株)、日本貨物鉄道(株)東北支社 日特エンジニアリング(4)、(株)リンバイ、トヨタカローラいわき(株)、(株)計装電子、ミドリ電機製造(株)、アサヒ通信(株)、アサヒ電子(株)、倉敷レーザー(株)、ムネカタ(株) 東日本旅客鉄道(株)、会津建設(株)、伊達物産(株)